

令和２年度 第２回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 令和２年１０月２日（金）１８：３０～２０：１０

〔開催場所〕 昭島市役所市民ホール

〔出席者〕

- １ 委員：亀卦川会長、内田委員、大嶽委員、椎名委員、田中委員、名取委員、藤原委員、山本委員
- ２ 事務局：池谷環境部長、井上環境課長、渡邊係長（計画推進係）、光畑係長（環境保全係）、秋元係長（水と緑の係）、橘主任（計画推進係）
- ３ コンサルタント会社：倉地
- ４ 傍聴者：０名

〔欠席者〕

委員：長瀬副会長、臼井委員、堺委員、二ノ宮リム委員

〔議事要旨〕

- １ 開 会
- ２ 議 題
 - （１）検討作業の流れの確認について【資料１】
 - （２）次期計画素案の骨格について【資料２】
 - （３）施策・指標について
 - ① 新施策体系について【資料３】
 - ② 環境指標・目標について【資料４】
- ３ 報 告
昭島市環境基本計画改定に係る事業者意見交換会の結果について【資料５】
- ４ その他
- ５ 閉 会

〔配布資料〕

- 資料１ 令和２年度の検討作業フロー
資料２ 次期環境基本計画素案の骨格
資料３ 新施策体系（案）
資料４ 環境指標・目標（案）
資料５ 昭島市環境基本計画改定に係る事業者意見交換会 結果報告

〔発言要旨〕

- １ 開 会
- ２ 議 題
 - （１）検討作業の流れの確認について
井上課長： 資料１の説明（省略）

（２）次期計画素案の骨格について

井上課長： 資料２の説明（省略）

亀卦川会長： 前は 60 頁ほどの素案ができたが、それに対し多くの意見が出たので、計画の組み立てとして章を組み替えるなどの検討が加えられた。委員の皆様の意見等を踏まえた赤字部分が主な変更点である。

大嶽委員： 赤字が増えて、意見を入れていただき感謝する。RE100 を自治体として掲げていくことは、自治体としても取り組んでいくことにつながると思った。行政としても意気込みということで書いたのか。

池谷部長： 議会でもご指摘をもらっている。気候非常事態宣言と一緒に RE100 も考えてはどうかという意見があった。昭島市では環境を重視する精神に変わりはない。再生可能エネルギーを発電できればそれが一番良いが、できないにしても調達していくと考えるのが良いのではということで、答申のなかで入れてはどうかと思っている。

大嶽委員： このような取組を行うと先進自治体になると思うので、期待している。目標のところでも話してみたい。

椎名委員： １頁の第１章の「３ これからの昭島市」で、「近年では自然減・社会減に近づきつつあり、総人口は横ばいから減少局面へと移行しつつある」という記述があるが、データで出ているのか。

井上課長： 国が示している動向、市の独自の分析による動向を受けた記述としている。

椎名委員： 人口の伸びが鈍化しているという意味なのか、あるいは減少しているのか。

井上課長： 今後、減少していくだろうという意味である。

椎名委員： 都ではそのような分析をしていたが、昭島市ではどうだろうということでも聞いた。減少しているのかなと思うが、どう読み取られるか、気を付けて書くとういと思った。

椎名委員： RE100、SDGs、ステークホルダーは、一般には分からない。解説が必要である。

椎名委員： 「第２章 望ましい環境像と基本目標」に赤字部分の見え消しが表示されているが、どのような理由で変更したものなのか。

井上課長： 見え消しは、前回から修正し、赤字を追記したという意味である。

椎名委員： 基本条例の第３条①では「市民が健康で安全かつ快適な生活を営む」とあり、それを基本目標のタイトルにも入れるべきだと思う。

椎名委員： 第２章の「２ 望ましい環境像」で、基本目標５では「人材育成」が削除されている。しかし、実際に今活動している人は、定年が早かった人たちが、定年が延長になるとやる人がいなくなる。いつの時代も人材は必要だ。環境活動の中で、人材育成はそのとおりで、残した方がよいと思う。境遇が変わったときでも活動に参加できる状況を作る、世代によって異なるので、境遇にあったような人材育成が必要だと、私は思う。

井上課長： 基本目標２の「健康で快適に暮らせる生活環境を守るまち」で「快適」を消した経緯であるが、「快適」とは目標１～４の全てに関係する。特に基本目標２は公害系の内容が中心となるので、基本目標の記述では「快適」を取らせていただいた。ただし、文章中では快適を残すという考えで整理した。また、基本目標５で「人材を育成するまち」で文言を消した経緯であるが、「育

成」というと行政が上にあり、上から目線での表現に聞こえるということで、意見があった。みんなで環境に取り組むという中に「育成」を含めて表現をさせていただいた。

椎名委員： 人材育成は、民間企業でも使われる。

池谷部長： ご意見を踏まえ、字句の使い方は市の方で検討したい。

椎名委員： 第3章の「3 計画の視点」で、4として「新たな感染症に対応する」で、「地域の環境保全活動の在り方を変えていく必要がある」と記述があるが、ここは今までのものを否定するということではなく、「多様なものに変えていく」とし、今までのものも認めるという表現とする方が、幅が出てくると思った。

井上課長： 今のご指摘は大変参考になった。どのような表現とするか検討してまいりたい。

椎名委員： 「第4章 分野別の方向」の「1 自然環境」の「環境の現状」での記述で、「崖線の斜面地の多くは雑木林に覆われ、場所によって湧出が流出し」とあるが、「湧水があり」のような表現がよい。「流出」というとマイナスのイメージを持ってしまう。また、基本目標5のなかで、水と緑を通じた連携・交流とあるが、「人材育成」が重要だと思い、その記述を入れた方がよいと思った。また、「4 地球環境（緩和）」の基本目標で、「実装」という言葉が記載されているが、意味がわかりにくい。広辞苑に出ていればよいと思うが、噛み砕いた表現にした方が市民としてはわかりやすいと思った。

椎名委員： 「エコロジカルネットワーク図」で、動植物の名称を追加したのはとてもよい。その一つにトラフズクが出てくるが、場所としては法務省の施設の用地の辺りか。

井上課長： ここは法務省の施設ができた場所の辺りである。

椎名委員： 実はトラフズクは、最初立川に居て、次に昭和記念公園に来た。渡りのような行動で、季節的な移動をしているので、昭島市で確認されたのだと思う。そうすると、法務省の施設ができると別のところに行くかもしれない。

井上課長： 文言の使い方は、前回の審議会で出された意見もあるので検討したい。

藤原委員： 「エコロジカルネットワーク図」に関連する意見を申し上げる。残堀川のあたりが緑色に塗られ「緑地保全ゾーン」となっているが、実際は北の方から公園ができ、立川の清掃工場ができつつあり、その南側に残堀川の調節池があり、法務省の女子中間ケアセンターが設置されるのに、緑になっているのはなぜか。また、トラフズクの記載があるが、南側にオオタカの保護を目的とする保護区域がある。しかし、オオタカの記載がないのはなぜか。

井上課長： オオタカは河川敷に、大まかな位置を記載している。緑地保全ゾーンについて、開発状況も分かっているのではないかと指摘を受けたが、現在都市計画マスタープランの策定を行っているので、整合を取りながら表現していく必要があり、確認させていただく。

内田委員： 「目標・指標」の欄では、「新規」と注釈を付けているものがあるが、今までやっているものも多いと思う。

井上課長： ここでは、環境基本計画では初めて取り上げるので「新規」と表現した。これまでも実施していたものを含んでいる。

大嶽委員： 「基本目標3」のところで、「低炭素社会」と表記があるが、「脱炭素社会」

を用いるということで確認したと思う。国の方では「脱炭素」としている。

井上課長： 前回も指摘は出ていたものである。表現は「脱炭素」で統一したいと考えている。

亀卦川会長： では「脱炭素」という表記で揃えることとする。

亀卦川会長： 1 頁では、「地球温暖化防止」という表現が 2 箇所あるが、「防止」は不可能であり、少しでも和らげるという意味で「緩和」という表現が適切であると申し上げた。温暖化を止めるというのは現実的でなく、科学的に考えても使うべきではないと思い、指摘した。また、2 頁目の「(4) 新たな感染症に対応する」の項目の記述の 1 行目について、「コロナウイルス感染症などの新たな感染症に対応するため」とするとよいという指摘をした。

井上課長： 望ましい環境像のキャッチフレーズについては引き続き募集をしていきたい。よいアイデアがあれば、お知らせください。

(3) 施策・指標について

①新施策体系について

井上課長： 資料 3 の説明（省略）

<基本目標 1>

大嶽委員： 環境課が目玉で取り組んでいる、給水スポットは水のところに入るものなのか。または脱プラスチックということで、循環型社会に入るのではないのか。どこに書かれているのか。

井上課長： 「4-2 熱中症や感染症等、健康影響への対策の充実・強化」のところで、熱中症対策の一つとして、位置付けている。

大嶽委員： 昭島市が水に親しんでいるということだが、熱中症対策として位置付けるのか。

井上課長： 駅前のスポットは、あきしまの水に触れてもらうのと、ペットボトルを減らしてもらうという意味合いが強い。全体的には、熱中症対策として位置付けた。

大嶽委員： 環境部としては、脱使い捨てになるのかなと思っている。給水スポットは担当所管が環境課になるのだから、熱中症対策にもなると思うがそちらにも位置付けてはどうか。

井上課長： 他とのバランスもあるので、検討させていただきたい。

椎名委員： 「1-2 (2) 地下水 100%の水道水の維持・活用」に、(※森林整備)とあるが、新たにやるのか。

井上課長： 地下水の保全にはこれまでも取り組んできたが、改めて環境基本計画に位置付けるようにする。

椎名委員： 地下水の涵養域は広いので、市域外を対象に取り組むものでなければここに位置付けることは難しいのではないのか。広げすぎると、ドン・キホーテみたいになってしまうので、気を付けると良い。

椎名委員： 1-4 (1) に、「ブロック塀の生垣化の助成制度の利用促進」とある。ここに、かっこ書きで、「国の社会資本整備交付金の見直しに合わせ支援内容について要検討」と記載があるが、どちらの方向になるのだろうか。

井上課長： 補助金が対象外になるということで、縮小の方向である。

- 椎名委員： 大阪でブロック塀が倒壊する事故があったが、ブロック塀の危険度を調査したものがあるのか。
- 井上課長： 教育委員会により、学校周辺で調査をし、必要に応じて保守等を行っているところである。環境基本計画では、危険なブロック塀を無くすのではなく、塀を緑に変えていくという趣旨で記載した。
- 椎名委員： 防災は関係ないのか。
- 井上課長： 適応策のように防災も関係する部分がある。
- 椎名委員： ブロック塀の生垣化とするとそうかもしれないが、生垣化の助成制度とするか。ブロック塀を記載するのは、防災や安全上の取組であることを前提に生垣化するということだろう。であれば、ブロック塀の言葉を表示しない方がよいかもしれない。勇み足かもしれないが、私は踏み込むべきだと思う。安全は環境の要素のうち一番大事なところだと思う。調査をすることも必要である。防犯上も生垣が一番よい。ブロック塀は乗り越えられるが、生垣は乗り越えられない。どちらの視点に立つかはお任せする。
- 井上課長： 補足させていただく。ブロック塀に関する記述を載せているのは、環境課の補助金として、ブロック塀を壊し生垣にするときには補助金を出すという補助制度を実施しているので載せた。ただ安全面が前面となってしまうということであれば、削除することもあるかもしれない。
- 椎名委員： 私は、削除する必要はないと思う。環境基本計画に安全の視点も盛り込むことが必要だと、自負をもって計画を作った方がよいと思う。これは私の意見である。
- 椎名委員： 1－7（4）は、「アライグマやハクビシン等の外来生物の駆除対策の推進」とある。次の「多摩川河川敷の外来生物対策」ではかっこ書きでオオキンケイギクと書いてある。外来生物と書くと対象がはっきりしない。特定外来生物とすれば法律で決まった種に限定できる。たんに外来生物とするとウメやタケも含まれてしまうので、用語の使い方としては注意が必要である。例えば、「なんとかの外来生物」と限定して書く方法もある。外来生物全てを敵に回す必要はない。

＜基本目標 2＞

- 井上課長： 資料 3 の説明（省略）
- 名取委員： 2－1（1）で、「水質、土壌、地下水のモニタリング調査の定期的な実施と適切な指導」で、「指導」の対象は事業者だと思うが、この記載では対象が誰なのかわかりにくい。
- 井上課長： 誰に指導するのか、わかりやすく記載させていただく。
- 内田委員： ざっと見て、「無電柱化」に関する取組が見つからなかった。景観も環境の中に入ってくる。無電柱化によって歩道に花を増やすこともできると思った。
- 井上課長： 無電柱化は、都市計画マスタープランなど、まちづくりの部分で出てくる取組だと考えていた。景観という部分では検討の余地があると思った。環境基本計画の中で、どこに載せられるかはあると思うので、検討したい。
- 内田委員： 無電柱化を行った地域を歩くと、とても気持ちがよいと感じた。
- 井上課長： まちづくりの施策ではあると思うので、環境基本計画に必要なか検討したい。

＜基本目標３＞

井上課長： 資料３の説明（省略）

内田委員： 「ゼロエミッション」というと廃棄物の関係の言葉だと思っていた。基本目標３の内容はエネルギーに関する取組が中心で記述しており、ゼロエミッションの内容が異なって使われているようだ。ゼロエミッション東京戦略に対応した話なのか。どちらの意味で使っているのか。

井上課長： ３－１（１）では、エネルギー部門の視点での記載をしている。

内田委員： 今はゼロエミッションといたら、エネルギー関係のことを言うのか。

池谷部長： 環境全般である。ごみも含め、次世代自動車も含んでいるので、環境全般である。

内田委員： ３－２では、エネルギーに位置付けているようだ。

池谷部長： こういう言い方をすると、特化してしまうことになる。検討してみる。

井上課長： ゼロエミッションの使い方については検討する。

亀卦川会長： ゼロエミッションは、正確に言うと、エネルギーというより、温室効果ガスを指す言葉であろう。

椎名委員： 公共施設における太陽光発電が消えているようだ。いろいろな再生可能エネルギーをやるべきだとは思いますが、「太陽光発電等」のように記載してはどうか。施策としては、やはり代表的な可能なものは太陽光発電である。同様に、「再生可能エネルギーを利用した防災拠点等の整備」の施策も「太陽光発電等」と記載した方がよいと思う。

椎名委員： 芝生化の推進の推進が削除されている、既にできているという意味か。

井上課長： ご指摘のとおりである。校庭の芝生化は、残り２校を残すのみである。

椎名委員： 敷地面積に対する充足率という意味では調べているか。

井上課長： 調べていない。

椎名委員： 高校や私立高校なども対象にしてはどうか。都内の自治体でもトップクラスだろうと思う。私は他の市でも関わっているが、これほど芝生化が進んでいる市はないだろう。市が手本を示しているので、さらに市内のいろいろな施設に展開するというのもできるのではないか。芝刈りはボランティアがやっているのか。

井上課長： ボランティアが活動している。

椎名委員： 是非取り上げてもらいたい。市民の活動を、縦割りだけでなく、横の活動になり、素晴らしいと思った。

井上課長： 太陽光発電を取り上げてはどうかというご指摘だが、市としては、再生可能エネルギー全般をとらえ、このような表現としたいと考えている。芝生化は、財源確保の必要性もあるため、環境基本計画上は難しいと考えている。市の施策として何かできないか、という部分は考えたい。

椎名委員： 維持だけでなく、市民による環境活動の促進として捉えてはどうかと思った。

大嶽委員： ３－２の再生可能エネルギーのところで、省エネ機器の設置について書いてある。ZEBやZEHが進んでおり、高断熱高気密の建物を普及させる視点も施策に入れるとよいと思った。また、３Ｒのところだが、昭島市はごみ減量が喫緊の課題であるが、新規や拡充の取組があまりない。市民と一緒に取り組

むことを見せることが重要である。昭島市は多摩地区のなかでも一番ごみを減らすというような目玉になるものを書いてはどうか。剪定枝のリサイクルとあるが難しいし、ペレットと具体的に書いてあるが実際には難しいと思うので、書きぶりを変えてはどうか。プラスチックを減らそうということだが、LCA を考えると、マイバックを何枚も持っていることが環境に良いのかということも思った。書きぶりを工夫してはどうか。

井上課長： 公共施設の高気密高断熱は、改修等に合わせ省エネ機器だけでなく必要となることと思うので、記述するよう検討したい。ごみ減量について、もう少し意見を集めながら、新規や拡充できる部分を記載したいと思っている。

池谷部長： 一般廃棄物ごみ処理基本計画は来年度に改定する予定である。具体的なことはそこに盛り込まれていく。環境基本計画では、細かいところまでは触れられないので、方向性を示すように書いていこうと思っている。

井上課長： ペレットのところは具体的すぎるということもあったので、検討したい。LCA の視点も重要だということで、追記を検討させていただきたい。

<基本目標 4>

井上課長： 資料 3 の説明（省略）

椎名委員： 4－1（2）の土砂災害、風害対策に関する施策内容の 3 点目に老木を選定伐採する対象としているが、危険木の方が適切である。老樹銘木が天然記念物の対象となっている。

藤原委員： 防災行政無線の子局の増設について施策内容が挙げられているが、これ以外にも市民に伝える方法が必要だと思う。台風で風が吹いている中では、無線だけでは聞こえない。スマホなども使って伝える方法を考えた方がよい。

井上課長： 実際にはホームページやメール等も利用しているので、書きぶりについては防災課とも調整させていただきたい。

<基本目標 5>

井上課長： 資料 3 の説明（省略）

②環境指標・目標について

井上課長： 資料 4 の説明（省略）

藤原委員： 活動に参加したことの市民の割合について数字が出ているが、一人がいくつも参加している場合もあるだろう。回数でカウントすると、パーセントの値が上がる。参加している個人はもっと少ないかもしれない。

井上課長： ご指摘のように、どこまでとらえるか、実人数をカウントしないと把握できない。何回も参加する人もカウントされる。

亀卦川会長： 今はどちらの数字を使用しているのか。

井上課長： 市民意識調査の結果であり、無作為に抽出した方からの回答なので実人数である。

椎名委員： みどり率や緑地確保目標はかなり高い目標だろう。しかし、農地も減る。41.1%は数字を出さないで、言葉をうまく使った方がよいと思う。数字を出さなければ、事業説明ができることになるかもしれない。プラスになるような指標を探してみるのもよい。湧水個所は、現状維持ということだが、同様

であろう。

椎名委員： 31.0%の数字は意識調査なので、きめ細かく見てはどうか。延べ人数でもよいと思う。しかし、意識調査で把握する値では曖昧だと思う。意識していないでやっている人もいると思うので、アンケート結果に反映されにくいだろう。例えば、アキシマザクラの植栽本数は、市として普及させるという方針があれば、指標に挙げるのもよいと思う。プラスに評価できると思う。

椎名委員： 昭島は玉石積がある。高いものは10m位のものもあるが、そういう場所の壁面緑化をしてはどうか。玉石積は昭島市の特徴だと思う。多摩川由来の材料を、地産地消の考え方で作られてきたものであり、それをさらに良くするために壁面緑化のような考え方を入れると、施策としてできるかと思った。ただし、よく考えないといけない。

内田委員： 協働による取組のための体制づくりについて、自分は環境配慮事業者ネットワークの活動しか知らないのだが、当時は回数も頻繁に開いていた。大企業は自分たちで情報を収集できるのだが、中小企業はそれも中々難しい。お金を掛けなくても出来ることは教育だと思う。情報収集のためにネットワークに入るのもよいが、前と比べると尻つぼみになっているように感じる。そこで、施策のところで「要検討」とあるが、考えないといけないと思う。環境未来会議も同じ状況だと思うが、幹事が何かをやろうと考えていかないと、尻つぼみになっていくだろう。

井上課長： ネットワークは約40社の会員があり、活動は継続していきたい。継続するのは当然だが、拡充をどうしていくか、人数を増やすか、業者数を増やすか、イベントを増やすか、いろいろな切り口があると思うが、そういう意味で要検討である。未来会議も青年会議所と連携していく。環境に興味を持ってもらう人材を育てていくことを考えたい。

内田委員： 子どもたちへの教育は、学校でもかなり意識してやっているようだが、把握はどうなっているか。

井上課長： 教育委員会に対しては、3Rや環境に関する取組状況について把握している。キッズISOについても学校に協力いただいている。引き続き、協力を依頼したいと考えている。

内田委員： ここの記載は事業者や一般市民を対象にしているようなので、子どもたちのことも記載した方がよいと思う。

井上課長： 検討させていただきたい。

亀卦川会長： この資料に対し、委員から意見がある場合は事務局に言えばよいか。

井上課長： 電話、メール等どのような形でも良いがご意見をいただきたい。

山本委員： 要検討だと表記があるものに対し、「このような検討をしてもらいたい」という意見を出してもよいか。

井上課長： 大変ありがたい。

亀卦川会長： ご意見等があれば、事務局まで提出いただきたい。

3 報 告

井上課長： 資料5の説明（省略）

4 その他

①「昭島市の環境」の配付

井上課長： 昨年度の活動報告となっているので、ご覧いただきたい。

②今後のスケジュール

井上課長： 次回の環境審議会は、来年２月下旬の開催を予定している。今後、事務局では作業部会での検討や、施策に関する庁内照会の結果を基に調整したもので、ご審議をいただきたいと考えている。ご意見等があれば、いつでもお寄せいただきたい。

③その他

田中委員： 昭島市の 2018 年の転入が 5,575 人、転出が 1,068 人で、全国で 22 番目に高い率で、快適度ランキングが全国で 1 位だったという新聞記事があり、良いことだと思い皆さんにお知らせしたかった。昭島市に住んでいて嬉しいと思った。

5 閉 会